

赤米献上隊の来訪

10月10日、兵庫県養父市八鹿小学校の六年生児童が自分たちで育てた赤米を研究所に持ってきてくれました。1963年の平城宮跡の発掘調査で但馬国養父郡小佐地域から赤米五斗を平城宮に納めたことを示す木簡が出土したことに因むものです。兵庫県養父郡八鹿町小佐地区では1980年から赤米の栽培を始め、地元の小学校の児童が赤米を育て奈良の都に献上するというイベントを1990年から一時中断を含めて継続的におこなってきました。2012年の小学校統合後は養父市立八鹿小学校が引き継ぎ、地元で田植え・稲刈り・感謝祭・わら細工づくり等赤米づくりの体験活動をおこない、締めくくりに奈良の都に赤米を献上するというものです。

赤米献上隊は平城宮跡資料館にバスで到着し、そこから俵を担いで資料館へ持ち込み、贈呈式をおこないました。校長先生挨拶、奈文研代表挨拶、児童からの挨拶があり、児童からは赤米1升と当時の木簡を大きく拡大したものが届けられ、役人に扮する研究員が検品の後、領収証にあたる返抄木簡を手渡しました。養父郡出身の采女たちに扮した職員も参加しました。馬場史料研究室長の講話の中で、長さ約28cmの出土した実物の木簡を見た児童たちは「木簡は意外と小さかった」等の感想を語ってくれました。その後、児童たちは平城宮跡資料館を見学し、平城宮跡を後にしました。

出土遺物に関わる地域間交流は平城宮跡の活用にヒントを与えてくれたと実感しました。

10月17日付けの「なぶんけんブログ」に写真とスライドショーを掲載していますので、こちらをご覧ください。
(文化遺産部 内田 和伸)



赤米贈呈式の様子